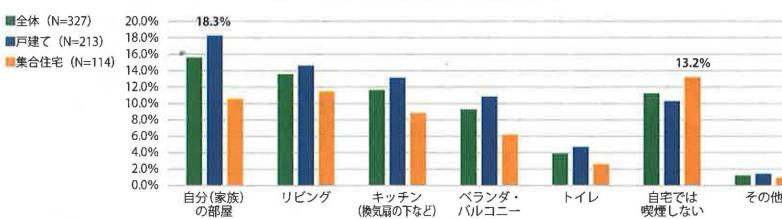


住宅での受動喫煙 実態調査

表1 自宅での喫煙場所（複数回答可）



受動喫煙はあらゆる場所で起こっていますが、現代、最も深刻な被害は、避けがたく、継続的である、「住宅での、近隣からのタバコの煙」被害でしょう。

【調査】自宅での喫煙と受動喫煙防止策」と題して、不動産関連の比較検定サイト「リビングマッチ」運営・リビング・テクノロジーズ株式会社が、「19年のWorld No Tobacco Day(世界禁煙デー)」毎年5月31日)に向けて調査し、公開したところです。

その全報告は同サイトをお読みいただきたいのですが、(※、「ここでは主な項目のみを、本紙の意見も加えながら紹介します。(二内は原文、太字化は本紙によります)

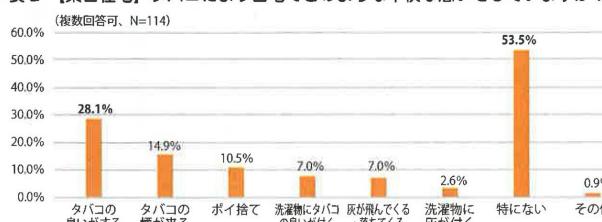
【調査結果サマリー】(II)まとめ・要約・本紙注
・ポイント1 戸建て居住者よりも喫煙率が高い!
・ポイント2 電子・加熱式タバコも気になる
人は50・5%。
受動喫煙防止策「特に何もしていない」は50%超
るもの!

表1のよう、戸建て居住者では「自分(家族)の部屋」(全体・15・6%、戸建て・18・3%、集合・10・5%)、「リビング」(全体・13・5%、戸建て・14・6%、集合・11・4%)、「キッチン(換気扇の下など)」(全体・11・6%、戸建て・13・3%、集合・8・8%)の順ですが、「自宅では喫煙しない」では「自宅では喫煙しない」(全体・11・3%、戸建て・10・3%、集合・13・2%)、もつとも隣人への

この設問への回答は、居住形態によって違いが見られました。

「自宅での喫煙場所」は

表2 【集合住宅】タバコにより自宅でどのような不快な思いをしていますか？



次ページに続く↓

判や訴訟で勝つ事例も出ているのですが、住宅では、管理会社へ訴えてもまとめてくれないことがあります。引越しを繰り返していれば、さらなる厳格な申入れにはかなりの労力と期間を要します(管理者のいない戸建てではさらに困難です)。しかし、その実態調査は、行政や団体などによっては特に行われてこなかったのは問題といえるでしょう。

しかし、このたび、民間企業により、画期的な全国調査が実施されました。

【調査】自宅での喫煙と受動喫煙防止策」と題して、不動産関連の比較検定サイト「リビングマッチ」運営・リビング・テクノロジーズ株式会社が、「19年のWorld No Tobacco Day(世界禁煙デー)」毎年5月31日)に向けて調査し、公開したところです。

その全報告は同サイトをお読みいただきたいのですが、(※、「ここでは主な項目のみを、本紙の意見も加えながら紹介します。(二内は原文、太字化は本紙によります)

【調査結果サマリー】(II)
まとめ・要約・本紙注
・ポイント1 戸建て居住者よりも喫煙率が高い!
・ポイント2 電子・加熱式タバコも気になる
人は50・5%。
受動喫煙防止策「特に何もしていない」は50%超
るもの!

自宅でのタバコ被害の実例

「約3割が外からのタバコの臭いに不快感」

「昨今、タバコによる近隣トラブルが増えています。実際、タバコにより自宅でどのような不快な思いをしているのでしょうか？」として、回答にあった被害の実例を示しています。(表2、集合住宅の結果のみ。この設問では住居形態による差はとくにかつたようです)

「特にない」が戸建て・集合・28・1%、続いて「タバコの煙が来る」(戸建て・16・4%、集合・14・9%)、「ポイ捨て」(洗濯物にタバコの臭いが付く)「灰が飛んでくる」となりました。

受動喫煙が発生しやすい「マンション・バルコニー」での喫煙は、少なくなっています。

やはり、集合住宅ほど、近隣を意識する喫煙者が多い、ということでしょうか。

なお、調査では初めて喫煙率＝家族で喫煙者がいるか、の質問の結果も報告していますが、集合住宅より戸建てに喫煙者が多い(戸建て・43・2%、集合・34・2%)との結果で、報告は「集合住宅居住者はタバコ嫌いが多い」としています。

STOP受動喫煙新聞

2019年7月30日(火)

2

↑前ページより

また、「その他」の具体的回答には「喘息が悪化し、2回入院した」という人がいたそうで、「健康被害にも繋がっていたことがわかった」とのことでした。

対策を講じる人は少数

自宅での受動喫煙防止策は

では、被害に対して、どうしているのか。設問「受動喫煙を防止するため、その自宅ではどのように対策をしているのか」は、表3a・bの結果となりました。

集合住宅と戸建てでは、回答の具体例が違っています。「特に何もない」が双方とも半数超となりました。これは前述の「どちらが最も不快な思いをしているか」の回答と「数字がほとんど同じであるため、不快な思ひをしていないから対策もしていない」と捉えられます」と述べています。

「解決法がないため、我慢している人も

行なっている対策の回答では、戸建て・集合住宅居住者とともに「自宅内禁煙」

加熱式タバコへの意識は

調査では「電子・加熱式タバコについてはどう思っているかも聞いています。『電子・加熱式タバコもタバコと変わらないで気になる』」(金体..50%・55%、戸建て..47%・4%、集合..56%・1%)とあります。

※受動喫煙撲滅機構WEBサイトでは、「19年6月25日ニュースに調査の要約と全報告へのリンクを掲載しています。

5月31日は「世界禁煙デー」【調査】自宅での喫煙と受動喫煙防止策集合住宅居住者の喫煙率は34.2%、戸建ては43.2%! 戸建ての受動喫煙、半数以上が対策なし!

「リビングマガジンBiZ」(リビング総研・リビングマッチ)19年5月28日(調査概要)

■調査期間:2019年4月12日~4月25日

■調査手法:インターネット調査(任意でアンケートに回答)

■集計数:サイト「リビングマッチ」を利用した20歳以上の男女全国327人(内訳代..5人、30代..10人、40代..72人、50代..113人、60代..60代..85人、70代以上..42人)

全文)

が最多でした。しかしこれは近隣からの被害に対するものではないので、(本紙の意見ですが)これも、何もしないとほぼ同義質問に対しても答えることが特になくかもしれません。

実際に被害がある、または被害を心配して思われる、対策の回答では、「隣が喫煙中は窓を開けない」が多く(本紙注:「奥つたら閉める」という例も含むと思われる)、集合住宅では「管理側に注意などをしてもらう」がそれに続きましたが、どちらも「近所関係が悪くなるので我慢する」という「対策を打たず(打てず)」が5%超ありました。報告は「解決法がないため、我慢している人もいました」と結んでいます。

喫煙者宅へ直接、「喫煙しないようお願いする」はさらに少數でした。

5月31日は「世界禁煙デー」【調査】自宅での喫煙と受動喫煙防止策集合住宅居住者の喫煙率は34.2%、戸建ては43.2%! 戸建ての受動喫煙、半数以上が対策なし!

「リビングマガジンBiZ」(リビング総研・リビングマッチ)19年5月28日(調査概要)

■調査期間:2019年4月12日~4月25日

■調査手法:インターネット調査(任意でアンケートに回答)

■集計数:サイト「リビングマッチ」を利用した20歳以上の男女全国327人(内訳代..5人、30代..10人、40代..72人、50代..113人、60代..60代..85人、70代以上..42人)

全文)

49.5%、戸建て..52.6%、集合..43.9%、「喫煙率に比例した結果となりました」とのことでした。